

重要文化財
鳴無神社

御祭神

三上神(ひとことぬしのかみ) 又の御名を味鉦高彦根神(あじすきたかひこねのかみ) 鳴無神社の創建は、一五六〇年余前(西暦四六〇年)の古社で、現社殿は上佐一代藩主山内忠義公が一六六三年に再建したもの。

「本殿」は二間四面の春日造(こけら葺)極彩色内陣で、天井には天女の舞の絵(伝村上龍門筆)が描かれ、「幣殿・拝殿」は切妻造(こけら葺)で、いずれも社宝である「鰐口」とともに、国の重要文化財に指定されています。

夏の大祭「志那弥(しなね)大祭」(毎年八月二十五日)ではお船遊びと称し、太漁旗をなびかせた漁船の海上パレードが勇壮に行われ、秋の大祭(チリヘツポ)(旧八月二十三日)では、神の子の結婚式が厳かに行われます。



鰐口(重要文化財)
藤原忠義公が
寛文三年七月三日奉寄進



御由緒

旧記によれば、この大神此の地に鎮座したのは、今より一五六〇年余(西暦四六〇年)の昔、雄略天皇の四年十二月晦です。大神は天皇との間に諸事行つて大和の葛城山を出られ、船に乗つて海に浮び浦ノ内南半島の太平洋岸にご上陸。海水煮炊き、火食せられ、その立ち上る煙を見た里人が行つて見ると、現人神であられたので、尊び敬つて大神と御船(金剛丸)を担ぎ、山を越え玉島(現社殿地)に迎えた。そして宮殿を建て大神を奉安し、御船は社殿右脇の山に封じ、御船山として注連縄を張り、大切にしている。

御神徳

- 海上安全 漁業繁栄
- 五穀豊穰 産業繁栄
- 縁結び 子孫繁栄

重要文化財 鳴無神社

御神徳 縁結び 御祭神 一言主神(味鉦高彦根神)